

呉地域研究情報データベース

呉大学社会情報学部助教授 平尾元彦

大学や研究機関において様々な地域研究がなされ、研究蓄積がなされている。しかし、実際の地域政策においてそれらが活用されることは多くない。その理由のひとつとして、研究情報の公開手法の問題が存在する。すなわち、各大学・研究機関において紀要・研究報告等が発行されるものの、一般に目にふれることはあまりなく、かつ、過去の研究蓄積の情報を得ることは困難である。

呉地域研究情報データベースは、呉市およびその周辺地域を対象とした研究情報をデータベース化したものである。呉市内の大学等研究機関の紀要・研究報告、ならびに広島地域シンクタンク発行の雑誌を中心に、呉地域にかかわる研究情報を収録し、インターネットを利用して著者名や表題フリーワードで検索できる。地域政策の立案や地域研究発展のための基礎的情報基盤を形成するものである。

1. はじめに

よりよい地域をつくっていくために、住民各層のまちづくりへの参画が求められている。そのためには、地域の現状や課題に関する情報が必要であり、これらを地域共通の情報基盤として整備することが必要とされる。

地域統計など行政による情報は、印刷物や最近ではホームページの活用により効果的に発信がなされるようになってきた。このほか、大学や地域シンクタンクにおいても、地域に関する基礎的研究が進められているが、これらが一般の目にふれる機会はあまりない。貴重な研究成果がありながら、その成果は関係者だけにとどまるものが大部分、というのが現状である。研究情報を発信し、多方面で活用されることが、研究機関、とくに地域に密着した研究機関においての課題といえるだろう。

呉市および近隣地域においては、大学・大専校、公設試験研究機関など、多数の研究機関があり、多くの研究者が研究活動を行っている。また、広島県内には、中国地方総合研究センターなどシンクタンクが地域に関する様々な研究活動を行っており、このなかでも、呉地域に関するもの、あるいは、呉地域をケーススタディーとして研究を

行ったものなど、呉にかかわる研究も少なくない。

呉地域研究情報データベースは、大学・地域シンクタンクなど研究機関の研究活動のうち、呉地域にかかわるものについて、その研究成果の所在をデータベース化し、ホームページで公開したものである。地域政策の立案や地域研究発展のための基礎的情報基盤を形成するものと考えている。

2. 地域データベースの現状

地域社会・経済に関する研究を行うさい、まず、過去の研究成果をレビューしたうえで研究に着手するのが一般的である。近年の情報通信技術の発達により、インターネット経由でデータベースの検索が容易に行えるようになってきた。インターネットの活用は、アクセスが容易で広く利用が可能なこと、情報発信コストが低いこと、ならびに情報の更新が随時可能なことから、この種の情報発信に適した技術といえるだろう。しかしながら膨大な数の研究情報を網羅的に蓄積することは極めて困難で、当然ながら、収録誌・期間には限界がある。

表1は、過去に呉地域にかかわる研究が掲載された雑誌について、インターネットで利用可能な代表的データベースの収録状況をまとめたもので

ある（有料サービスを含む）。国内研究情報を網羅したデータベースである国立国会図書館の記事抄録（NICHIGAI/WEB サービス・雑誌記事索引ファイル）においても、現在のところ、その情報は1984年以降のものであり、かつ、シンクタンクの情報は最近のものしか収録されていない。今回

表1 呉地域にかかわる研究を発表する機関誌のデータベース収録状況

	発行機関								
	呉大学社会情報学部	呉大学短期大学部	近畿大学工学部	呉工業高等専門学校	会場保安大学校	中国工業技術研究所	中国地方総合研究センター	ひろぎん経済研究所	広島地域社会研究センター
NICHIGAI/WEB サービス 雑誌記事索引ファイル	-	-	○	○	○	○	○	○	-
関西学院大学産業研究所 SAINT	-	-	-	-	-	-	○	-	-
大阪市立大学経済研究所 OCU ERI-Biblio（経済学文献目録）	-	-	-	-	-	-	○	-	-
NACSIS-IR 経済学文献索引 データベース	-	-	-	-	-	-	○	-	-
野村総合研究所 NRI Cyber Search	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1. NICHIGAI/WEB サービス・雑誌記事索引ファイル（学術誌・大学紀要・専門誌）は、国内で刊行され、国立国会図書館が収集した雑誌のうち、記事抄録の対象として指定する雑誌5,607誌に掲載されたもの。1984年以降。中国地方総合研究センターは、『季刊中国総研』のみ（1997年10月以降）。ひろぎん経済研究所『カレントひろしま』は、1999年4月以降を収録
2. 関西学院大学産業研究所 SAINT（Sanken Intergrated Network）は、1988年以降の産業研究所の受け入れ雑誌約900誌を対象とした、産業経済関係データベース
3. 大阪市立大学経済研究所 OCU ERI-Biblio（経済学文献目録）は、1994年8月から経済研究所が受け入れた国内発行の雑誌資料約1,500誌に掲載された経済学関係の論文を収録
4. NACSIS-IR 経済学文献索引データベースは、経済学関係の和雑誌約1,000誌に掲載された論文を収録。1983年以降
5. 野村総合研究所 NRI Cyber Search は、官公庁・団体・企業・調査機関などが発刊した、一般には入手しにくいレポート・調査資料などの灰色文献約2万件の書誌データを収録

収集した呉地域の研究情報80件のうち、このデータベースに収録されているのは24件にすぎないのである。表1のデータベースは、特定の目的に限ったデータベースではなく、国立国会図書館については全分野、それ以外のデータベースは社会・経済関係を中心とした幅広い研究情報を蓄積した大規模なデータベースである。しかしながら、ここに示すように、呉地域の研究を検索しようとする时必须しも十分な結果が得られないのも事実である。

過去の膨大な研究情報すべての収録データベースの作成は不可能であり、かつ、それは効率的ではない。そのために、地理学や社会学など分野ごとの目的に応じた研究情報データベースが作成され、研究者の間で活用されている。このような目的限定型データベースの方が効率的であり、有効な方法といえるだろう。しかしながら、インターネットを活用した地域に関する横断的な研究情報データベースは存在せず、地域データベースの作成が課題となっている¹⁾。

3. システムの概要

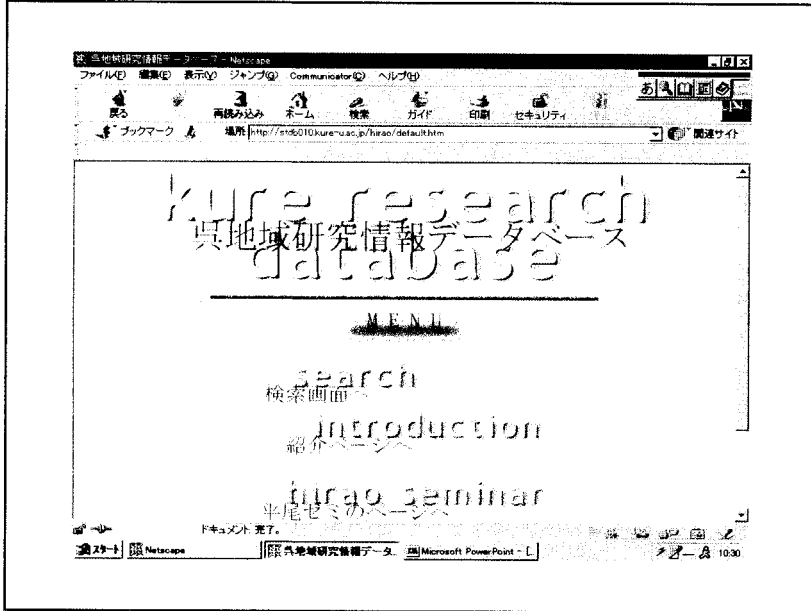
呉地域研究情報データベースは、呉地域にかかわる研究情報として、1999年12月現在80件を収録している。図1に示す画面により、表題のフリーワード、内容分類、著者名、発行機関、掲載誌名による検索が可能となっている。

検索結果として、論文題目、著者名、掲載誌名が出力される。ただし、このデータベースは研究論文の所在情報のみを提供するものであり、論文がここで入手できるものではない。

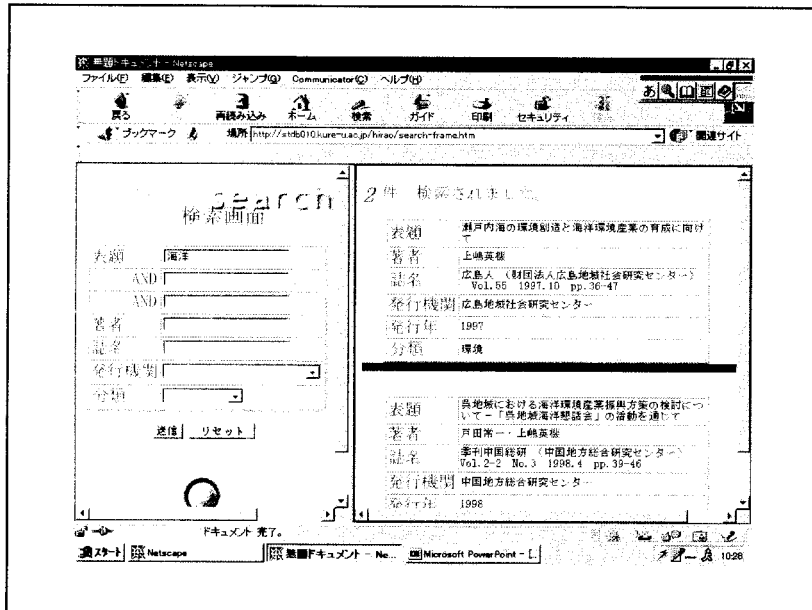
1) 地域研究情報データベースの例として、財団法人九州経済調査協会の地域情報データベース REQUEST-九州がある。大学紀要や一般雑誌等（約600誌）から主に九州にかかわる研究情報を蓄積し、オンラインサービスを実施してきた。また、紙媒体であれば、富山大学環日本海地域研究センター「環日本海経済文化に関する文献目録」や北九州大学・下関市立大学関門地域共同研究会「関門地域研究文献資料目録」などが作成されている。

図1 呉地域研究情報データベース画面

<トップページ>



<検索画面と検索結果>



4. データベース収録範囲

呉地域研究情報データベースは、データ収録の基準を、①呉地域にかかわる研究であること（一部を構成するもの、ケーススタディーとして採用するものも含む）、②公刊されている書籍・雑誌に掲載されていることとする。実際には、呉地域の大学の紀要・研究報告、広島県内の地域シンクタンクの発行する雑誌、およびこれらにかかわる研究者が他誌に発表した研究業績を収録する。

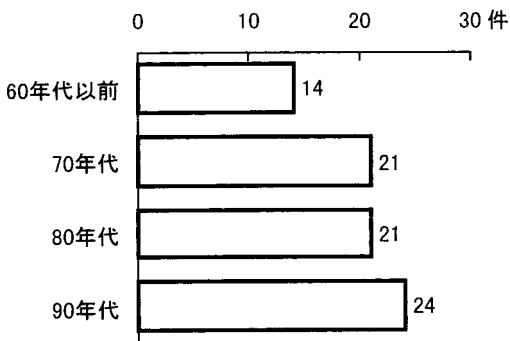
主な、収録誌は以下のとおりである。

主要収録誌：

呉大学社会情報学部紀要・社会情報学研究
呉大学短期大学部紀要
近畿大学工学部研究報告
呉工業高等専門学校研究報告
海上保安大学校研究報告
中国工業技術研究所報告
季刊中国総研（(社)中国地方総合研究センター）
カレントひろしま（(財)ひろぎん経済研究所）
広島人（(財)広島地域社会研究センター）
など

現在、収録されている80件の発表年代別収録件数は図2のとおりである。70年代以前の貴重な研究成果を発掘し、多数収録したことは、本データベースの特徴といえるだろう。

図2 研究情報の発表年代別収録件数



*本研究ノートは、投稿に当たって、12月18日に開催された「センター紀要投稿論文報告会」における報告と討議という要件を満たしたものである。

5. おわりに

呉地域研究情報データベースは、呉地域をケーススタディーとして、地域研究情報の発信と活用可能性を検証するためのツールとして開発したものであり、地域経済システム研究センターのホームページよりアクセス可能である。

<http://www-cres.senda.hiroshima-u.ac.jp/>

地域の貴重な研究蓄積を散在させず、地域研究の発展とまちづくりに有効活用していくためには、地域研究情報データベースの作成は極めて重要なことと考える。さらに、年々蓄積されていく研究情報の更新が必要となるため、運営・管理もこの種のデータベースにおいては重要である。情報の継続的発信のための体制づくりも課題といえるだろう。

今回は呉地域で作成したが、この重要性はいずれの地域においても変わるものではない。地域の行政機関や図書館、地域シンクタンク、あるいは大学等が主体となって運営・管理し、地域の情報基盤として活用されることが望まれる。将来、多くの地域において、このようなデータベースが作成され、広く地域づくりに活用されることを期待しつつ、さらにシステムの改善と効果の把握をすすめていきたいと考えている。

呉地域研究情報データベースを実現する上で、システムの構築ならびにホームページでの公開には、呉大学社会情報学部・亀多正人教授および亀多ゼミ学生・田口雅人君に、また、研究情報の収集・整備は、平尾ゼミ学生・福原公司君に協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。

Database for Research Information of Kure Area

Motohiko HIRAO, Associate Professor
Faculty of Social Information Science, Kure University

Abstract

Research institutions or universities have currently done various kinds of regional studies and accumulated outputs of the researches. However, the outputs have been rarely utilized in making regional policies in practice. One of the reasons is in the way to disclose researched information. That is, universities or institutions generally disclose the outputs only by the form of bulletins or research reports, which are relatively difficult to obtain for outside people. In addition, the past researched information of accumulated outputs are also difficult to obtain.

The Database for Research Information of Kure Area is the researched information database of study for Kure city and surrounding areas. This database collects the information, mainly from bulletins of universities in Kure city and journals published by research institutions in Hiroshima area. This database is accessible through internet, and able to search researched information by authors name, key words, and so on. This database provides the fundamental information for the development of making regional policies and studies.